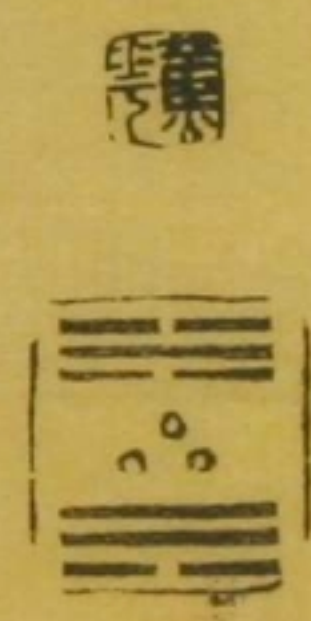




亦加  
卷

萩原乙彦訂正

# 助辭證



助辭頌序

言助辭格者。向來諸家依

師鈴屋翁所著

緒二書。一書神後學其功

大也矣。而至言語品格全

論。則二書亦未究得。故其

所論之不得明者。皆屬

諸變格。豈嫌於心乎。學者

往往憾之。至文政中。海西

鶴峯先生著詞鏡。語學新

書等諸篇。以裁定言語文

字品格。千古疑一時冰釋。

助辭之法。莫詳於焉。唯恐

以其言之出新聞。創見初

助辭



學之徒或有未及熟讀半而掩卷者。於是余不自揣竊取先生之意。別作小冊名曰助辭頌。欲使易會得也。如字音假字格。則於字音假字用格。無有間然。余又為作頌。雖似蛇足。併錄以使考索也。稿成。乃請訂正於先生。先生曰。是愈益推出。隱微底理。來者速上。本傳于同好可也。於是遂屬十割。刪氏云。

守拙市隱森維尹題於  
慎屋南窓下

助辭頌

助辭ノカリハ。ハハト。そのや。ト  
三轉トカ子テ知ルベシ

ハハト。能主格ト云  
そのや。ハハト。能主格ト云

二書ニハハト。徒。そのや。ハハト  
定ラレタ。ハハト。徒。ノカリト云ハ。實ハ

ハハト。添テ。関ク。意ノカリ。何ノ  
カリト云ハ。實ハ。ハハト。カリナル

明ラカナリ。文政中。鶴峯先生  
詞鏡及ヒ。語學新書ヲ著シテ  
改訂セリ。

三轉ノムスビ。ト。バ。オ。ホ。ム。子。ハ  
ハハト。ハハト。ハハト。ハハト。ハハト

ハハト。ハハト。ハハト。ハハト。ハハト  
ハハト。ハハト。ハハト。ハハト。ハハト

ハハト。ハハト。ハハト。ハハト。ハハト  
ハハト。ハハト。ハハト。ハハト。ハハト

ハハト。ハハト。ハハト。ハハト。ハハト  
ハハト。ハハト。ハハト。ハハト。ハハト



三 尤トもトノムスバ 現ノ志ヲキナリ  
トモヲ省クハ添テ同クベシ

古 曉をさうらう死のそら  
古 花一ちくまらちよもへぬ  
後 ふりひのぬあちのうらま  
至 妹がたのこまぬあゆり  
古 九うら風四さゆ 夜をせふ

四 其 老おまじひをきまらるる  
そのやうノムスビハ現ノ志ヲキナリ  
とぞノぞ等ハ省キテモイフ

古 福てあつたまふそら  
皇 いろそのそらと人のなき  
後 三 君がむひのむとまき  
拾 五 不身がくまふういつき  
後 十 我ぞより久のまきそら  
後 七 柳あや我ぞ人のあゆり  
ま 六 いろまをさだふえんらえ

百十 夜をさく舞のむきあはる  
後 一 ちるまふらと 因 尋られぬ  
スベテ あそそぞとぞとぞ合助  
辞 三 ぞヲ省ケル歌多シニテぞヲ添

五 テ同ク格ト心得ベシ  
そのやうノハ一 種ノカ、リニテ  
けしあやうかづトモムスガナリ

六 新三ありても月のかきふらり  
千六 志が宮ふあまのまき  
後 十 ちかふのよそののそら  
古 三 ちゆん怒のむすねまは

七 古四 ねふえんねどろそまら  
後 十 七ふとあすまきあやられ  
拾 十 一人あまそそを思ひそら  
目 前トハ現在ニ来方トハ去  
七 府 一 ちあはかクノ如キハ 由ノ下ニ  
こそヲ省ケル格ト知ルベシ

八 是ハ為ス  
拾 府 一 ちあはれ秋あまの  
けこるれば是ハとそヲ添テ  
ハ 七 ちト置クカリ下ハ 八 ち  
そのやうニテハ 八 ち

九 拾 共 垣根の柳をたふふ  
六 音あをいふそまことあ  
古 七 ちてそら 君が千年の  
新 四 ちあまをこま今や  
九 見のハ切レハハツマク然レ  
ビノ時ハ切レテツマカス

カ 三

カ 三

カ 三

カ 三

カ 三

カ 三



受く瘦を捨つ兼ぬ辨ふ養む  
又別る植うノ類ハチハチ現在  
用言ト六イキル詞ニハ由ムスビ  
粹トナルナリ

又の瘦する捨つる兼ぬ  
辨ふる養むる又の別る  
植うる類ハチハチ連体言トテ  
續ク詞ニ其のやうノムスビ辞ト  
ナルナリ但シ結辞トナル時ハ切レ

テ下ハハ續カズ譬へハ又の瘦  
別る瘦ナド連体言ニナル詞  
くみてぞ又の令やうくろく  
ヤウニぞのやうノムスビニナル時ハ

下ノ雲曉等ニハ續カヌ云  
そのやうトモノムスビトシキハ  
又の瘦を捨つノタダヒトゾ知ル

古一味あるアタのあくま  
ゆかり准メシム  
古五君がこぬよハあぞくぞわく  
のやうノカリ准メシム

とそノチキけてへめれハ使令トテ  
スベテ令スル助辞トシレ  
拾土のふハ身をもふとせま  
是ハこそノムスビナリ

古ニなる風をのあきまきま  
是ハ使令ナリ  
まといフ上ハそのあきまきまト知レ  
ハスベテムスビ助辞

古一妻のこえをのどけゆる  
ゆ准之  
後七もろむもあきまきま  
のやう准之

六帖山のゆみらも今ら  
ゆ准之  
古六あきまのあきまきま  
のやう准之

後五 三田原を秋のひびき  
まハシカシラハシカシナリ  
つがふハハハムスビニカギルナリ  
又けうらみト云々モ有リ

古一ちもたのいもあきまきま  
ゆ准之  
かやうくあくゆまきま  
ゆ准之

古ニあきまのあきまきま  
漆テ多ク意ノゆカリヲカス結令  
ておはトトチムル歌ハトチメヨリ  
カナラス上ヘカヘル格ナリ



古序ハ候ハ亦ハ必ハひつみハのハちハまハよハはハ  
ハ分ハのハたハのハのハもハあハまハてハ  
ハてハのハ過ハ去ハ格ハ三ハ建ハ及ハ接ハ続ハ言ハ三ハ九ハ  
助辞ナリ。

古ハ二ハ所ハ役ハ格ハナリ。  
ハあハれハのハきハてハもハえハまハくハ上ハ  
ハのハ所ハ役ハ格ハハハ二ハへハんハとハ准ハじハへハ  
ハ古ハ二ハあハれハのハもハあハまハくハ上ハ  
ハとハハハ所ハ役ハ格ハナリ。

古ハ八ハはハ格ハ三ハ世ハ三ハ格ハ及ハ形ハ容ハ言ハ三ハ九ハ  
ハのハあハまハくハ上ハ  
ハハハ能ハ格ハ三ハ世ハ三ハ格ハ及ハ形ハ容ハ言ハ三ハ九ハ  
ハスハテハ助ハ辞ハナハリハ云ハフハ能ハ格ハ三ハ世ハ三ハ格ハ及ハ形ハ容ハ言ハ三ハ九ハ  
ハ六ハ格ハ三ハ世ハ三ハ格ハラハ總ハテハイハフハナハリハサハレハ  
ハバハてハおハしハ二ハ類ハスハ助ハ辞ハ三ハテハデハルハ歌ハ  
ハハハナハスハ上ハハハカハルハモハシハ上ハハハカハラハザハルハハハ  
ハ其ハ下ハ三ハ詞ハヲハ添ハテハ意ハナハリハ余ハ情ハナハリハ  
ハつハノハ類ハ是ハハハ二ハ類ハトハナハメハヨハリハ上ハハハカハルハハハ  
ハ能ハ所ハ六ハ格ハ三ハ世ハ三ハ格ハ及ハ形ハ容ハ言ハ三ハ九ハ  
ハ接ハ続ハ言ハノハ詞ハナハリハトハ知ハルハベハシハまハあハくハ  
ハまハとハセハじハケハリハなハくハ等ハヨハリハ上ハハハカハルハハハ  
ハへハルハハハ形ハ容ハ言ハナハリハバハとハごハもハ等ハ  
ハヨハリハ上ハハハカハルハハハ接ハ続ハ言ハへハ知ハルハベハシハ

五十

体言ニヨミナガセルハ其下ニ  
ナリナル等ヲ添テ関ク格

古九ぬゆふまほの梅のなるさ  
物まあられかきもみよけふ山  
古八あふあふまのふかこもこも  
野六あふあふの影のきけり  
古一うちあふあふの影のきけり  
六帖よをそそのむさたの夜  
音のさわけきナドヲ語學新書  
体言ニテムスル格トイハレイマダ  
ミカリケル是マタまやけきテ下  
詞ヲ添テヤク格テ有ケル

六十

カカリテハトテメノありヲ省ケルハ  
カカリトテメヲ添テ関シ

古九ぬゆふまほの梅のなるさ  
物まあられかきもみよけふ山  
古八あふあふまのふかこもこも  
野六あふあふの影のきけり  
古一うちあふあふの影のきけり  
六帖よをそそのむさたの夜  
音のさわけきナドヲ語學新書  
体言ニテムスル格トイハレイマダ  
ミカリケル是マタまやけきテ下  
詞ヲ添テヤク格テ有ケル

古九ぬゆふまほの梅のなるさ  
物まあられかきもみよけふ山  
古八あふあふまのふかこもこも  
野六あふあふの影のきけり  
古一うちあふあふの影のきけり  
六帖よをそそのむさたの夜  
音のさわけきナドヲ語學新書  
体言ニテムスル格トイハレイマダ  
ミカリケル是マタまやけきテ下  
詞ヲ添テヤク格テ有ケル

八十

ハテノムスビキト有ルベキナリト云ハ  
トニテ續クル故トシルベシ















是等ノ歌ヲ變格トスルトヒガ  
 下ナリ。コレハ其ノ實チノ下ニハ  
 添テ聞ク意ニハ子ハ上ヘカヘ  
 リテ其ノ實チハハク採得スル  
 ぬトナル格ナリ。紐鏡ニハハク採  
 ノハカカリト見テ。セテハ畢シ  
 ぬニテハトマラ又故變格トシタル  
 ナ。改ムシスベテハハク採得スル  
 ぬハク採得スルノ類ハ疑問代名  
 言疑問法ニハ過ルル詞ニハ  
 能主格ノ助辞ニハアルナリ。又  
 狹衣ハトマラハハク採得スル  
 以ハルル下ニカテ添テ角カ  
 風雅トクハハク採得スルハ  
 知カカリヲ知リト採得スル。後撰  
 云ハハク採得スルノ實チハハク採  
 カリヲ知リト採得スル。是等ノ  
 一語學新書ヲハレ  
 動カマラ體言トイフ動クヲハ  
 活用言トカ子テシルベシ  
 譬ハ月知聖ノ如キハ體言ナリ。  
 知カカリノ如キハ知カカリ  
 知カカリノ如キハ知カカリ

ハタラクカ故ニ用言ナリト  
 レルベシ  
 体用ト虚代連形接続言  
 指示ト感動是ヶ九品  
 第一 嘆体言 天地 日月 山川  
 草木 金石 人畜 諸物ノ名 聲ノ  
 第二 虚体言 空 天 地 水 火 風 雲  
 第三 代名言 我 汝 他 此 彼 之 其 其  
 第四 連体言 月 日 年 月 日 年  
 第五 活用言 云 哉 乎 耶 乎 耶  
 第六 形容言 美 善 惡 賢 愚 貧 富  
 第七 接続言 且 而 以 而 以 而  
 第八 指示言 之 其 其 其 其 其  
 第九 感動言 歎息 嗚呼 嗚呼  
 第十 指示言 之 其 其 其 其 其  
 第十一 指示言 之 其 其 其 其 其  
 第十二 指示言 之 其 其 其 其 其



主ト生ト與役呼奪ニ現未過ノ  
助辞ヲ併テコレク九格

第一能主格 是もぞのやうこそ  
等ナリ

第二所注格 体言ト体言ノ間ノ  
のナリ

第三所與格 にとへナリ

第四所役格 とナリ

第五所奪格 よううら等ナリ

第六所召格 よやや等ナリ

以上能所ノ六格ナリ

第七現在格 かりらきり等  
等八過去格 てりりつあつ

第九未來格 ぞでじぬま  
ハカ等ナリ

以上三世ノ三格ナリ

右三世ノ三格能所ノ六格中。過去  
格ノて所與格ノに所役格ノを

能主格ノをハコト關係ヒロキ助辞  
ナルガ故ニ助辞ノ總名ヲておとと  
トハ呼ブモノナリ。敬辞ハモトヨリ  
平常ノ俗語ニテモ人助辞ヲ  
離レテハ言ハサズ或ハ

省ク一有セシナ添テ聞ク格ナリ  
万葉十九二詠霍公鳥二款二首霍

公鳥今來喧曾無菖蒲可都良  
久麻泥再加流々日安良米也

毛能波三箇辞闕之我門從喧  
過度霍公鳥伊夜奈都可之久

雖聞飽不足毛能波氏再乎六  
箇辞闕之トアル此二首三ナ霍公

鳥ノ下ニ波ヲ省ケリ是添テ聞  
ク意ノカリ之上ノ歌ハ添テ聞ク

波ヲ能格トシ曾無ト結言再  
所格トセリ下ノ歌ハ添テ聞ク波

ヲ能格トシ飽不足ト結言從  
所格トセリ語格ノ微妙ナルヲ

ヲ知ルベシ











十 下豪ヤ唐陽庚ノ開ハカク

合ハカクナリ押合ハカク  
カク豪奥唐陽庚央映耕嬰  
營櫻嬰カク陽王往枉唐汪皇黃

三十一 おひト書ク假字ハ痕欣侵ノ字ア  
とハ魂元両韻ノ字ツ

おひ痕恩欣殷殷隱侵音陰飢  
とハ魂温温益穩元表遠怨苑。

四十 ちハ職カハ屋ナリおハ迄

ちハ職カハ屋ナリおハ迄  
おハ職カハ屋ナリおハ迄  
おハ職カハ屋ナリおハ迄

五十 九東ノ弓ニキクノ假字

九東ノ弓ニキクノ假字  
九東ノ弓ニキクノ假字  
九東ノ弓ニキクノ假字

六十一 看ノ上下唐陽庚ノ假字ハカク

看ノ上下唐陽庚ノ假字ハカク  
看ノ上下唐陽庚ノ假字ハカク  
看ノ上下唐陽庚ノ假字ハカク

七十 江ノ韻ノ假字ハモトヨリカクトド

江ノ韻ノ假字ハモトヨリカクトド  
江ノ韻ノ假字ハモトヨリカクトド  
江ノ韻ノ假字ハモトヨリカクトド

八十 唐庚ノ合轉トハカクノ假字

唐庚ノ合轉トハカクノ假字  
唐庚ノ合轉トハカクノ假字  
唐庚ノ合轉トハカクノ假字

九十 きヤウト書ク鐘韻ノ韻

きヤウト書ク鐘韻ノ韻  
きヤウト書ク鐘韻ノ韻  
きヤウト書ク鐘韻ノ韻

十一 おハカクノ韻ナリ

おハカクノ韻ナリ  
おハカクノ韻ナリ  
おハカクノ韻ナリ



















